

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	和歌山市小瀬田85番地 (電話) 073 -479-2255		
評価機関名	和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山市太田4 2 1 - 1 駅前ビル4階F室		
訪問調査日	平成21年3月1日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】 ( 21/1/10)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤15人、非常勤1人、常勤換算	15, 75人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,833 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概 (1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	3名	要介護2	4名			
要介護3	5名	要介護4	5名			
要介護5	1名	要支援2	0			
年齢	平均	84.4 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 稲祥会 稲田病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな風景と静かさの中あたたかく入っていきやすい雰囲気のあるホームである。管理者自ら、熱意をもち職員とともに運営に携わっている。職員一人ひとりも施設の理念を十分に理解し日頃の業務に生かしている。医療面では、耳鼻科、整形外科等の専門科のある医院との連携を持ち一人ひとりに合わせた対応を行うことで、入居者、家族、職員の日常の安心を生み安定感のある生活を送れている。近隣との交流についても地域へ溶け込んだ運営がなされている。ホーム内では入居者、職員が家族のように信頼しあい、穏やかに生活ができていく様子がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	全ての職員が会議で自己評価について検討し、意義を学び取り組んでいる。日常業務等を改めて見直すための機会としてさらなる向上をめざし、積極的に取り組む姿勢がみられる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	上記同様自己評価に対する取り組みは積極的である。また、前回の指摘事項について即時に対応され、サービスの質の向上に向けて取り組む姿勢は高く評価できる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に地域住民、家族、地域包括支援センターの職員、民生委員等に出席してもらい開催している。グループホームの活動内容、入居者の状況について報告を行い、意見交換を行う中で新たな取り組みに挑戦するなどサービスの向上に活かしている。この会議を活用し、積極的に運営に役立てようとする姿勢は高く評価できる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族に「ふるさと便り」を送付し、入居者の生活状況、健康状態、行事等を報告している。また、ご意見箱を各棟に設置し、些細なことでも気軽に意見等、言えるようにしている。それ以外にも家族が面会に訪れた時など積極的に関わりを持ち報告を行っている。管理者、現場スタッフが家族との連携を重視していることは高く評価できる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣近所との交流は積極的に行われており、旬の野菜を戴いたり、各行事には近所の方々に参加して頂き交流を深めている。また自治会の行事(掃除等)に積極的に参加して、地域の交流に努めている。地域との連携の大切さがグループホーム内で共有されていることは高く評価できる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「大地に触れ外気（太陽）を浴びる、閉じこもりによるストレスの解放」ーストレスを溜めないよう楽しみを持って暮らして頂けるよう、入居者の個性に合わせ、そばに寄り添い、信頼してもらえることをめざし理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が十分に共有され実践に生かされるよう玄関先の見やすい所に掲示するとともに、管理者と職員は会議等の場で理念の実践に向けての取り組み方を検討し、課題解決に向けた実践を行っている。職員は自然な形で理解し実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所との交流は積極的に行われており、旬の野菜を頂いたり、各行事には近所の方に参加して頂き交流を深めている。また自治会の行事（掃除、祭事等）に積極的に参加して、地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員が会議で自己評価等について検討し、意義を学び取り組んでいる。日常業務等を改めて見直すための機会としてさらなる向上をめざし、積極的に取り組む姿勢がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地域住民、家族、地域包括支援センターの職員等に出席してもらい開催されている。グループホームの活動内容、入居者の状況について報告を行い、意見交換を行う中で新たな取り組みに挑戦するなどサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所支所との連携を密に行っており、支所長による「サクソ演奏」の慰問や助成金の支援など共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に「ふるさと便り」を送付し、入居者の生活状況、健康状態、行事等を報告している。それ以外にも家族が面会に訪れた時などに積極的に関わりを持ち、報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やミニ家族会（各行事の際家族との交流）運営推進会議で意見、要望、不満、苦情が話し合える機会を設けている。気軽に遠慮なく話し合いができるようムードづくりに工夫を凝らしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が保たれ、すべての職員が全入居者に対応できるよう、日頃よりユニットごとに職員は固定せず勤務している。ユニット間の連携を密にし、すべての職員が入居者全員の把握を行えるよう努めている。		


外部 評価 値	自己 評価 値	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修や職員の段階に応じた様々な外部研修に参加させている。研修後には全職員に伝達ができている。研修に参加することで、職員が業務に対して意識を持って取り組んでいる姿勢がみられるようになった。研修の際の経費は内容によって事業者が負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護老人保健施設の協力による現場研修やグループホーム連絡会を通じ同業者との交流の機会を持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には本人、家族がいつでも見学ができ、場合によっては自宅に訪問して説明を行い、信頼関係を築くよう心がけている。入居後は孤独にならず早く馴染めるよう、寄り添ったケアを行えるよう取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に入居者を中心に考え行動し信頼関係を築けるよう努めている。常に寄り添い同じ時を共有し、時には地域のことや料理のことなど教えてもらいながら家族のように遠慮の要らない関係を保つよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや要望を聞き出せるようコミュニケーションを大切にしている。その人に応じた対応ができるようケアカンファレンスを定期的に行い取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員がみんなで少しずつ計画作成に取り組んでいる。本人、家族、主治医との関係を密にし全職員が情報を共有しカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者本人の意向はもとより家族の意向を参考にしながら現状に即した計画を作成している。一人ひとりにあつた計画になるよう、定期的な見直しを行っている。特別に変化があつた際は随時見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複数の医療機関との連携をとり定期的な通院、往診を行うなど健康管理に配慮している。花見、外食、外出（行事）に積極的に取り組んでいる。入居者の希望、家族に状況に応じ対応できるよう心掛けられている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院との連携を密にすることにより、入居者、家族の希望に沿った支援が行えている。インフルエンザ等の感染症に対する指導や夜間救急時の迅速な対応など適切な医療が受けられるよう配慮している。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者本人、家族の意向を十分に聞き、医師、看護師を交えて情報の共有を図り話し合い連携を密にしている。重度化の状況に合わせ対応等について話し合いを進めながら、支援を行っている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入居者を傷つけたり不穏にさせるような言葉遣いを慎むように普段から話し合いを行っており、十分注意している。個人情報の取り扱いについても十分配慮している。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>特にスケジュールを立てることもなく毎日の生活リズム、他の入居者との関係を崩すことのないよう配慮し、一人ひとりに寄り添い、傾聴により思いを知り、「今日は天気が良いので散歩を」「今日は何時に入浴したい」等希望に沿えるよう柔軟に支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れ、近隣から頂いた旬の野菜や畑で作った野菜を使って季節感を演出している。食事の準備や片付け食器洗いなど入居者が参加できるように工夫している。食事は同じ時間、同じ食卓で職員と入居者がいろいろな話をしながら楽しんで行っている。気候の良い時には芝生の上の食事や毎月レストランに行って雰囲気を楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調不良等がなければ午前中から夕方までの間入居者一人ひとりの希望、ペースに合わせて毎日ゆっくりと入れるように配慮している。シャワー浴や足浴などの対応も柔軟に行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりが楽しみ事や出番を見いだせるよう場面作りなど配慮している。洗濯物を分けて畳んだり、過去の生活を活かし、花、木などの手入れなど楽しみをもった日常生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い日は各居室の吐き出し窓を開け自由に芝生に出られるよう工夫したり、気分転換のため近隣を散歩したり積極的に外出する機会をつくり支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける、かけない以前に入居者の生活を制限することなく、自由な雰囲気の中で生活できるよう配慮している。入居者の出ていくような気配を見逃さず、決して無理に止めたりはせず、さりげなく声をかけた後、寄り添い一緒に近所を歩いたり、ドライブをしたり等柔軟な対応をしている。不審者等侵入防止の目的で施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防火訓練、防災訓練を実施している。運営推進会議を通じ、地域の方々の協力が得られるようにしてる。地域自治会の防火訓練にも参加している。万一来て備えて避難袋を常備している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせた食事の提供や食事摂取量、水分摂取量は一覧で見やすい様式を使って確認を行っており、健康管理上の対応がなされている。週ごとの献立表を作成し、栄養バランスを考慮し支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節に合った花や木などを生け、ソファの設置、ひなたぼっこに最適な空間など居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。天井が高く明るく温かみにあふれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していた馴染みのある家具や置物を持ち込んでもらうようにしている。入居者一人ひとりの趣味や楽しみが居室の中でももてるなど居心地よく生活できるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。